



ゲートウェイとポートの一括処理

BAT を使用して、いくつかの Cisco ゲートウェイとそのポートを、Cisco CallManager データベースに一括して設定できます。各ゲートウェイとポートを個々に追加する必要はありません。次のタイプのゲートウェイを処理するには BAT を使用します。

- Cisco VG200 Voice Gateways をトランクおよびポートとともに追加、更新、または削除する。詳細については、[P.7-2 の「Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理」](#)を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Analog Interface Modules の Foreign Exchange Station (FXS) ポートを追加、更新、または削除する。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加」](#)を参照してください。

FXS ポート用のゲートウェイ電話番号

Gateway Directory Number テンプレートを使用すると、Cisco VG200 ゲートウェイまたは Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上の POTS ポート タイプに電話番号設定を指定できます。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理 \(P.7-2\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理 \(P.7-22\)](#)
- [FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成 \(P.7-3\)](#)

Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理

BAT を使用して Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco CallManager データベースに追加できます。VG200 ゲートウェイを追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェア コマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順とコマンドについては、ゲートウェイに付属している設定マニュアルを参照してください。

BAT を使用して Cisco CallManager データベースに Cisco VG200 ゲートウェイを追加するとき、次のタイプのトランクまたはポートが設定できます。

- アナログ デバイス用の FXS ポート
- ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- 北米における ISDN サービス用の T1 PRI (Primary Rate Interface; 一次群速度インターフェイス) トランク
- ヨーロッパにおける ISDN サービス用の E1 PRI トランク
- T1 Channel Associated Signaling (CAS) プロトコル トランク

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(P.7-3\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの削除 \(P.7-20\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)

Cisco VG200 ゲートウェイの追加

Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco CallManager に追加するには、**Configure > Gateways > VG200** の順に選択して Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウにアクセスする必要があります。VG200 Gateway Options ウィンドウで、**Insert VG200 Gateways** を選択して次のタスクを実行します。

1. FXS ポートを追加する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-3](#) の「[FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成](#)」を参照してください。
2. Cisco VG200 Gateway テンプレートを作成して、ゲートウェイとポートのセットに共通の値を定義する。詳細については、[P.7-4](#) の「[Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成](#)」を参照してください。
3. CSV データ ファイルを作成して、追加するゲートウェイとポートごとに個々の値を定義する。詳細については、[P.7-12](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
4. ゲートウェイとポートを Cisco CallManager データベースに追加する。詳細については、[P.7-18](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイの Cisco CallManager への挿入](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成

Cisco VG200 ゲートウェイまたは Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュール上の FXS ポートに電話番号を追加するときは、Gateway Directory Number テンプレートを使用します。

パーティション、コーリング サーチ スペースなどの共通した電話番号の詳細情報がある BAT テンプレートを、POTS ポート タイプ用に作成できます。



(注)

Cisco VG200 ゲートウェイに FXS 以外のポート（たとえば、FXO ポート）を追加する場合は、[P.7-4](#) の「[Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成](#)」を参照してください。

Gateway Directory Number テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドはオプションです。

手順

-
- ステップ 1** **Add, view, or modify Gateway Directory Number template for FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Gateway Directory Number Template Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** Gateway Directory Number Template Name フィールドに、このテンプレートの固有の名前を、50 文字以下の英数字で入力します。
 - ステップ 3** このフィールドに設定値を入力します。詳細については、[P.7-32](#) の「[Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明](#)」を参照してください。
 - ステップ 4** 新しいテンプレートを追加するには、**Insert** をクリックします。そのテンプレートがテンプレートのリストに表示されます。
 - ステップ 5** Steps to Insert Gateways ウィンドウに戻るには、**Back** をクリックします。
-

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成してから、ネットワーク モジュール用のエンドポイント識別子を追加します。ゲートウェイ テンプレートの作成がすでに済んでいて、まだエンドポイント識別子を追加していない場合は、[P.7-10](#) の「[Cisco VG200 Gateway テンプレート用のエンドポイント識別子の更新](#)」に進みます。

次のエンドポイント識別子の設定には BAT テンプレートを使用する必要があります。

- FXS ポート

- FXO トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

始める前に

VG200 Gateway テンプレートを追加する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。
- ステップ 2** **Add, view, or modify VG200 template** を選択して **Next** をクリックします。VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次のフィールドに値を入力します。
- **VG200 Gateway Template Name** : BAT テンプレート用の固有の名前を 50 文字以下の英数字で入力する。
 - **Cisco CallManager Group** : このゲートウェイ用の Cisco CallManager Group を選択する。
- ステップ 4** Installed Voice Interface Cards 領域の Module in Slot 1 フィールドで、スロット 1 に取り付けられているネットワーク モジュールのタイプを選択します。
- **NM-1V** : Network Module-1Voice には、Sub-Unit 0 に、FXS または FXO 用の 1 枚の音声インターフェイス カード (VIC) がある。
 - **NM-2V** : Network Module-2Voice には、FXS または FXO 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚、Sub-Unit 1 に 1 枚、合計 2 枚の VIC がある。
 - **NM-HDV** : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI 用に、Sub-Unit 0 に 1 枚の VIC がある。
 - **None** : ネットワーク モジュールが取り付けられていない。

ステップ 5 Product Specific Configuration 領域で、次のフィールドに値を入力します。

- **Switchback Timing** : プライマリ Cisco CallManager へのスイッチバックに使用されるタイミング メカニズムを選択する。
- **Switchback Uptime-Delay** : 遅延スイッチバック使用時に適用される遅延時間を分単位で選択する。このフィールドに入力する必要があるのは、Switchback Timing フィールドで「Delayed」を選択した場合です。
- **Switchback Schedule** : スケジュールされたスイッチバック使用時に適用されるスケジュールを時間と分で指定する。このフィールドに入力する必要があるのは、Switchback Timing フィールドで「Scheduled」を選択した場合です。
- **DTMF リレーのタイプ** - 次のオプションから、使用したい DTMF (デュアルトーン多重周波数) のタイプを選択します。
 - Out of Band
 - Cisco
 - NSE
 - NTE-CA
 - NTE-GW
 - Current GW Config

ステップ 6 **Insert** をクリックします。挿入が完了したことが **Status** によって示されると、新しいフィールドがペイン上に表示されます。

ステップ 7 Sub-Unit フィールドで、各 sub-unit フィールドに適切なタイプを選択します。

- VIC-2FXS : FXS 音声インターフェイス カード
- VIC-2FXO : FXO 音声インターフェイス カード
- VWIC-1MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-2MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-1MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード
- VWIC-2MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイス カード

- ステップ 8** **Update** をクリックします。更新が完了したことが **Status** によって示されると、サブユニット ドロップダウン リスト ボックス の右側にエンドポイント識別子がリンクとして表示されます。



(注) VG200 ゲートウェイ テンプレートを完成するには、[P.7-7](#) の「[エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加](#)」を続けて行います。

エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加

FXS ポート、FXO トランク、および T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのインターフェイス用のエンドポイントをテンプレートに追加する手順は、次のとおりです。T1 CAS エンドポイントを設定する場合は、**Port Configuration** ウィンドウを使用したポートの設定も必要です。

追加するすべてのポートは、**BAT** テンプレートを使用して設定する必要があります。たとえば、エンドポイント識別子 (1/0) にポート 1、2、および 3 を追加するには、まず **BAT** テンプレートでポート 1、2、および 3 を設定してから、**CSV** データ ファイルを使用してこれらのポートを追加する必要があります。

手順

- ステップ 1** VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウで、アイコン上に小さな疑問符が表示されているエンドポイント識別子のリンクをクリックします。疑問符はエンドポイントが設定されていないことを示します。

Cisco VG200 Gateway Template Endpoint Configuration ウィンドウが、エンドポイントの設定値と一緒に表示されます。

- ステップ 2** このエンドポイントに設定するトランクまたはポートのタイプに対して次のいずれかのオプションを実行します。

- POTS デバイス用の FXS ポートを設定する場合は、適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-44](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明](#)」を参照してください。これらのポートで使用する Gateway Directory Number テンプレートを指定する必要があります。
- FXO トランクを設定する場合は、適切なトランク設定値を入力する。詳細については、[P.7-47](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明](#)」を参照してください。
- T1 トランクを設定する場合は、**T1 CAS** シグナリング プロトコルまたは **T1 PRI** シグナリング プロトコルを選択する。
 - T1 PRI トランク インターフェイス プロトコル：適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-54](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明](#)」を参照してください。
 - T1 CAS トランク インターフェイス プロトコル：[P.7-9](#) の「[T1 CAS エンドポイントとポートの Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加](#)」を参照する。
- E1 トランクを設定する場合は、適切な設定値を入力する。詳細については、[P.7-54](#) の「[Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 3 エンドポイントの設定値を入力したら、**Update** をクリックします。更新が完了したことを **Status** が示すと、エンドポイント識別子アイコンは疑問符の代わりにインターフェイス タイプを表示します。

ステップ 4 追加のエンドポイントを設定するには、[ステップ 1](#) ～[ステップ 3](#) を繰り返して、すべてのエンドポイントを設定します。

ステップ 5 **Back to VG200 Template Configuration** をクリックしてから **Back** をクリックして Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウに戻ります。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

T1 CAS エンドポイントとポートの Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加

VG200 Gateway テンプレートに T1 CAS エンドポイントを追加する手順は、次のとおりです。さらに Port Configuration を使用して、T1 CAS 用の E&M ポートを設定する必要があります。T1 CAS トランク インターフェイス エンドポイントそれぞれに、1 ~ 24 の間の任意のポートを設定できます。

追加するすべてのポートは、BAT テンプレートを使用して設定する必要があります。たとえば、エンドポイント識別子 (1/0) にポート 1、2、および 3 を追加するには、まず BAT テンプレートでポート 1、2、および 3 を設定してから、CSV データ ファイルを使用してこれらのポートを追加する必要があります。



(注)

3 桁のポート識別子はエンドポイント識別子番号とポート番号の組み合わせを表します。最初の桁がエンドポイントを、その後続く 2 桁がポート番号を示します。たとえば、エンドポイント 0 とポート番号 7 のポート識別子は 007 です。

手順

- ステップ 1** T1 CAS トランク用の VG200 Endpoint Configuration ウィンドウで、適切な設定値を入力します。詳細については、[P.7-49 の「Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明」](#)を参照してください。
- ステップ 2** エンドポイントの設定値を入力したら、**Update** をクリックします。更新が完了したことを **Status** が示すと、エンドポイント識別子アイコンは疑問符の代わりにインターフェイス タイプを表示します。
- ステップ 3** T1 CAS 用の E&M ポートを設定するには、左ペインの **Add a New Port** をクリックします。Port Configuration ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** 次のフィールドに対して値を選択します。
 - **Beginning Port Number** : All Ports または 1 ~ 24 の番号が付いた個々のポートを選択する。
 - **End Port Number** : 1 ~ 24 の番号が付いたすべてのポートまたは個々のポートを選択する。

- ポートの設定値を入力する。詳細については、[P.7-52](#)の「[T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明](#)」を参照してください。

ステップ 5 さらに設定するポートがある場合は、**Insert** をクリックして**ステップ 3**～**ステップ 5**を繰り返します。

T1 CAS エンドポイント用の E&M ポートすべてを設定した場合は **Insert and Close** を選択します。ポップアップ ウィンドウが閉じ、VG200 Gateway Template ウィンドウの左カラムに **Port: <番号>** としてポートが表示されます。

- 左ペインのポート識別子をクリックして **Port Configuration** ウィンドウを開くと、テンプレートのポート アトリビュートを修正できます。詳細情報に変更を加えて、**Update** または **Update and Close** をクリックします。
- 左ペインのポート識別子をクリックして **Port Configuration** ウィンドウを開くと、テンプレートのポートを削除できます。**Delete** をクリックして、ポートを削除します。

ステップ 6 **Back to VG200 Template Configuration** をクリックします。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#)の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 Gateway テンプレート用のエンドポイント識別子の更新

Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成がすでに済んでいて、まだエンドポイント識別子を追加していない場合、テンプレートを完成させる手順は、次のとおりです。**Configure > Gateways > VG200** の順に選択して、エンドポイント識別子オプションにアクセスします。

手順

ステップ 1 VG200 Options ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** **Add, view, or modify VG200 template** を選択して **Next** をクリックします。VG200 Gateway Template Configuration ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** VG200 Gateway Templates のリストで、エンドポイント識別子のアトリビュートを追加する BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 4** Installed Voice Interface Cards 領域で、Sub-Unit 用の適切な音声インターフェイスカードを選択します。
- ステップ 5** **Update** をクリックします。更新が完了したことが **Status** に示され、エンドポイント識別子が左ペインに表示されます。
- ステップ 6** 設定するエンドポイント識別子を選択します。設定が必要なエンドポイント識別子は、アイコンに未設定を示す疑問符が付いて表示されるので、見分けることができます。
- Cisco VG200 Endpoint Configuration ウィンドウが、エンドポイントの設定値と一緒に表示されます。設定手順全体については、[P.7-7 の「エンドポイント識別子の Cisco VG200 Gateway テンプレートへの追加」](#)を参照してください。
- ステップ 7** [ステップ 4](#) ～ [ステップ 6](#) を繰り返して、すべてのエンドポイント識別子を設定します。
- ステップ 8** **Back to VG200 Template Configuration** をクリックしてから **Back** をクリックして Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウに戻ります。

その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

BAT を使用して Cisco CallManager データベースに VG200 ゲートウェイおよびポートを挿入する場合は、新しいポートの追加または既存ポートの更新ができます。

BAT スプレッドシートを使用して、VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 FXS または FXO ゲートウェイ用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.7-12\)](#)
- [Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法 \(P.7-15\)](#)

テキスト エディタを使用して VG200 ゲートウェイおよびポート用の CSV 形式のテキスト ファイルが作成できます。次の項を参照してください。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベース CSV ファイルの作成 \(P.A-27\)](#)

Cisco VG200 FXS または FXO ゲートウェイ用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の FXS ポートまたは FXO ポートそれぞれの詳細情報、たとえば、電話番号、ポート説明、およびパーティションを含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-28](#) の「[FXO トランクまたは FXS トランクの CSV ファイル形式](#)」の情報と例を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。

- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** ゲートウェイのアトリビュートを追加するには、スプレッドシートの下部にある **VG200 FXS FXO** タブをクリックします。
- ステップ 4** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。

- **MGCP Domain Name** : ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力する。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg200-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg200-1`）。ホスト名が `vg200-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg200-1.cisco.com` と入力します。

- **Description** : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力する。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- **Port 1 Description** : ポート 1 の説明を 50 文字以下で入力する。ポートのリスト内でポートの識別に役立つ説明を使用します。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の **Description** フィールドに入力する場合にも当てはまります。
- **Port 1 Directory Number** : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力する。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の **Directory Number** フィールドに入力する場合にも当てはまります。



(注) Port 1 Directory Number フィールドと Port 1 Partition フィールドが必要なのは FXS ポートだけです。FXO ポートでは、これらのフィールドはブランクのままにします。

- **Port 1 Partition** : このポートが属するルートパーティションの名前を、50 文字以下で入力する。そのルートパーティションが Cisco CallManager Administration ですでに設定されていることを確認してください。この要件は、ポート 2 ~ ポート 4 の **Partition** フィールドに入力する場合にも当てはまります。

ステップ 5 Export to BAT Format をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDDataFiles（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

VG200Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント

いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートにブランク行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。ブランク行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDDataFiles から、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダに、CSV ファイルをコピーします。



(注)

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ゲートウェイおよびポート用 CSV データ ファイルのための BAT スプレッドシートの使用方法

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、または E1 PRI ポートの詳細情報、たとえば、ドメイン名、MGCP 説明、およびポート識別子を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

VG200 ゲートウェイ用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-29](#) の「[T1 CAS トランク、T1 PRI トランク、または E1 PRI トランクのファイル形式](#)」の情報と例を参照してください。

手順

- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルを検索し、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** **VG200 T1-Pri T1-CAS E1-Pri** タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、**Number of Port Identifiers** フィールドが表示されるまで右にスクロールします。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。1 つのポート識別子だけを使用する場合は、このステップをスキップしてください。
- ステップ 5** 各行に、次のフィールド用の情報を指定します。
 - **MGCP Domain Name** : ゲートウェイを識別する名前を 1 ~ 64 文字で入力する。DNS ホスト名が正しく解決するように設定されている場合は、そのホスト名を使用します。そのように設定されていない場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されているとおりのホスト名を使用してください。

ホスト名は Cisco IOS ゲートウェイ上で設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が `vg200-1` に解決されるようにゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合、このフィールドには、そのホスト名を入力します（この場合、`vg200-1`）。ホスト名が `vg200-1` としてゲートウェイ上で設定され、IP ドメイン名が `cisco.com` としてゲートウェイ上で設定されている場合、このフィールドには `vg200-1.cisco.com` と入力します。

- **MGCP Description** : ゲートウェイの説明を 100 文字以下で入力する。ゲートウェイの検索に役立つ固有の説明を使用します。
- **Port Identifier 1** : ポート識別子の説明を 3 桁以下の数字で入力する。最初の数字を 0 または 1（エンドポイント識別子 0 またはエンドポイント識別子 1 を示す）にし、その後にポート番号 01 ~ 24 を続けます。許容される値の範囲は 001 ~ 024、または 101 ~ 124 です。



(注) T1 CAS の場合に限り、ここで指定するポートは、VG200 テンプレートに指定されているポートと同じでなければなりません。CSV データファイルでは、テンプレートで設定されているポートは、`none`、`some`、または `all ports` と指定できます。テンプレートで設定されていないポートを CSV データファイルに設定しないでください。設定した場合、BAT VG200 テンプレートと CSV ファイルを挿入しようとするエラーが発生します。

たとえば、テンプレートでポート 1、2、3、および 4 を設定した場合、これらのポートをどれも設定しないか、ポート 1、2、3、4、またはポート 1、2 などを CSV ファイルに設定すれば、挿入は受け入れられます。ただし、CSV ファイルでポート 5 および 6 を設定した場合、それらがテンプレートで設定されていないと、BAT で挿入エラーが発生します。

ステップ 6 Export to BAT Format をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、`C:\XLSDataFiles`（または、指定した別の既存フォルダ）に保存されます。

`VG200Gateways#timestamp.txt`

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。

**ヒント**

いずれかのフィールドにコンマを入力した場合、BAT.xlt を使用して BAT 形式にエクスポートするときに、そのフィールド エントリは二重引用符で囲まれます。

スプレッドシートに空白行を入力すると、その空の行はファイルの終わりとして扱われます。空白行の後に入力されたデータは、BAT 形式には変換されません。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピー ディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、C:\XLSDataFiles から、Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\VG200Gateways フォルダに、CSV ファイルをコピーします。

**(注)**

エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイの Cisco CallManager への挿入

Cisco VG200 ゲートウェイおよびポートを Cisco CallManager に追加する手順は、次のとおりです。

始める前に

- トランクまたはポート用の Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを用意します。詳細については、[P.7-4 の「Cisco VG200 Gateway テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- FXS ポート用の電話番号の詳細を挿入する場合、Gateway Directory Number テンプレートを用意します。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- VG200 ゲートウェイ ポート用の CSV データ ファイルを用意します。詳細については、[P.7-12 の「Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Steps to Insert VG200 Gateways ウィンドウで、**Insert Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Insert Gateways ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** File Name フィールドで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報が格納されている CSV データ ファイルの名前を選択します。
 - ステップ 3** VG200 Gateway Template Name フィールドで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した VG200 Gateway テンプレートの名前を選択します。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起これるような場合は、トランザクションを取り消すことができます。

ステップ 5 VG200 ゲートウェイを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

ステップ 6 **View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2 の「BAT ログ ファイル」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイの削除

一部、またはすべての Cisco VG200 ゲートウェイ レコードを Cisco CallManager データベースから削除できます。VG200 Options にアクセスするには、**Configure > Gateways > VG200** の順に選択します。Cisco VG200 ゲートウェイを削除する手順は、次のとおりです。

手順

- ステップ 1** VG200 Options ウィンドウで、**Delete VG200 Gateways** を選択して **Next** をクリックします。Delete Gateways ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** Select VG200 gateways where 領域で、ドロップダウン リストから検索対象フィールド、たとえば MGCP Domain Name や Description を選択します。
- ステップ 3** ドロップダウン リスト ボックスで、begins with、contains、is empty などの検索基準を選択します。
- ステップ 4** 検索フィールドに、検索対象の値、たとえば、MGCP ドメイン名またはゲートウェイの説明を入力します。
- ステップ 5** **Add To Query** をクリックして、定義したフィルタをクエリーに追加します。
- ステップ 6** 複数のフィルタをクエリーに追加するには、**AND** または **OR** をクリックします。
- ステップ 7** **View Query Result** をクリックして、削除対象のレコードを確認します。



注意

クエリー（[ステップ 2](#)～[ステップ 5](#)で説明）を指定していない場合、**Delete** をクリックすると、すべての Cisco VG200 ゲートウェイが削除されます。

ステップ 8 Delete をクリックすると、選択したレコードが削除されます。

Cisco VG200 ゲートウェイが Cisco CallManager から削除された後、BAT は、削除されたレコード数と削除に失敗したレコード数を示すログ ファイル（エラーコードを含む）を生成します。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュール用に FXS ポートを追加する前に、次のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールする必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用して、ゲートウェイを設定する。設定方法については、ゲートウェイに付属しているマニュアルを参照してください。
2. Cisco CallManager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加するには Cisco CallManager Administration を使用する。Cisco CallManager Administration で、**Device > Add a New Device > Gateway > Next** の順に選択します。Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway とデバイス プロトコルを選択して、**Next** をクリックします。

BAT を使用して、アナログ デバイス用に、FXS ポートを Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログ インターフェイス モジュールに追加できます。Gateway Directory Number テンプレートを設定して、これらの FXS ポートおよび Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートに関連付けしてから、これらのポートを Cisco CallManager データベースに追加する必要があります。

次のトピックでは、これらのタスクの情報と手順について説明します。

- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加 \(P.7-23\)](#)
- [Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新 \(P.7-29\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除 \(P.7-31\)](#)

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートを Cisco CallManager に挿入するには、**Configure > Gateways > Catalyst 6000 (FXS)** の順に選択して Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウにアクセスする必要があります。Catalyst 6000 Options ウィンドウで、**Insert Catalyst 6000 (FXS) ports** を選択して次のタスクを実行します。

1. 電話番号の詳細を必要とする FXS ポートを追加するために、Gateway Directory Number テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。
2. FXS ポートのセットに共通の値を定義するために、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成する。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成」](#)を参照してください。
3. 追加する FXS ポート用に個々の値を定義するために、CSV データ ファイルを作成する。詳細については、[P.7-24 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
4. FXS ポートを Cisco CallManager データベースに追加する。[P.7-26 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポートの Cisco CallManager への挿入」](#)を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68 の「関連項目」](#)を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) Ports テンプレートの作成

ポート テンプレートとコンマ区切り値 (CSV) ファイルは、連携してバルク トランザクションを行います。そのバッチ内のすべてのポートに共通のアナログ詳細情報 (たとえば、ポート方向やポート レベル) を記載するテンプレートを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS Ports テンプレートを作成する手順は、次のとおりです。注釈がない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウで、**Add, view, or modify Catalyst 6000 (FXS) Ports template** を選択して **Next** をクリックします。Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Configuration ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Name フィールドに、固有のテンプレート名を入力します。
 - ステップ 3** フィールドに設定値を入力します。詳細については、[P.7-66](#) の「[Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明](#)」を参照してください。
 - ステップ 4** **Insert** をクリックします。更新が完了したことが **Status** に示されると、テンプレートが左ペインに表示されます。
 - ステップ 5** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウに戻るには、**Back** をクリックします。
-

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用 CSV データ ファイルの作成

個々の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートそれぞれの詳細情報、たとえば、電話番号、ポート説明、およびパーティションを含む CSV データ ファイルを作成するには、BAT スプレッドシートを使用します。

BAT スプレッドシートのインストール方法と使用方法については、[P.1-13](#) の「[BAT スプレッドシートをデータ収集に使用する方法](#)」を参照してください。

Catalyst 6000 (FXS) ポート用にテキストベースの CSV データ ファイルを作成する場合は、[P.A-31](#) の「[Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベース CSV ファイルの作成](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** **BAT.xlt** ファイルを見つけ、ダブルクリックして、BAT スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**Enable Macros** をクリックしてスプレッドシート機能を使用します。
- ステップ 3** **Catalyst 6000 (FXS) Ports** タブをクリックします。
- ステップ 4** ポート レコードそれぞれの情報を 1 行に入力します。すべての必須フィールド、および該当するオプション フィールドに値を入力します。各欄の見出しは、フィールドの長さを指定しています。
- **MAC Address** : ゲートウェイの MAC アドレスを 12 文字で入力する。
 - **Port Number** : ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24) を数値で入力する。
 - **Directory Number** : このポートの電話番号を 24 桁以下の数字と特殊文字で入力する。Partition を指定した場合は、この値を必ず入力してください (オプション)。
 - **Partition** : このポートが属するルート パーティションを 50 文字以下で入力する。電話番号を指定している場合以外は、この値を指定しないでください (オプション)。



注意

スプレッドシート内のブランク行は End of File (ファイルの終わり) として扱われ、それ以降のレコードは廃棄されます。

- ステップ 5** **Export to BAT Format** をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送します。

このファイルは、次の名前が付けられて、C:\XLSDataFiles (または、指定した別の既存フォルダ) に保存されます。

Catalyst6000_24PortsFXSGateway#timestamp.txt

ここで、「timestamp」は、このファイルが作成された正確な日時を表します。

CSV データ ファイルは、Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバにコピーして、BAT からこのデータ入力ファイルにアクセスできるようにする必要があります。フロッピーディスク、またはマッピングされたネットワーク ドライブを使用して、CSV ファイルを、C:\XLSDataFiles から Cisco CallManager 用のパブリッシャ データベースを実行しているサーバ上の C:\BATFiles\Catalyst6000_24PortsFXSGateway フォルダにコピーします。



(注) エクスポートされた CSV ファイルを読み取る方法については、BAT の Insert Gateways ウィンドウで、**View Sample File** へのリンクをクリックしてください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートの Cisco CallManager への挿入

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールのポートを、Cisco CallManager に挿入する手順は、次のとおりです。

始める前に

- Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートがこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-23](#) の「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成](#)」を参照してください。
- ポートの詳細を含む CSV データ ファイルをこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-24](#) の「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成](#)」を参照してください。
- Directory Number の詳細を追加または更新する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する必要があります。詳細については、[P.7-3](#) の「[FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** Steps to Insert Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウで、**Insert FXS Ports** を選択します。Insert Ports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用に作成した Cisco Catalyst 6000 ポート用の CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するために作成した BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 4** Gateway Directory Number Template Name フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートに電話番号を追加するために作成した BAT テンプレートを選択します (オプション)。



(注) CSV データ ファイル上で電話番号の詳細を指定していない場合、BAT はそのポートにアナログの詳細だけを挿入します。そのポートは電話番号を持ちません。

- ステップ 5** **Insert** をクリックします。

Cisco CallManager ディレクトリにレコードを挿入するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起これるような場合は、トランザクションを取り消すことができます。

- ステップ 6** Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを挿入するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

ステップ7 **View Latest Log File** をクリックすると、追加されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新

Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール用の既存のポートを、Cisco CallManager に対して更新する手順は、次のとおりです。 **Configure > Gateways > Catalyst 6000 FXS** の順に選択して、ポートの更新オプションにアクセスします。

始める前に

- Cisco Catalyst 6000 Ports テンプレートはこのバルク トランザクション用に用意します。詳細については、[P.7-23 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) Ports テンプレートの作成」](#)を参照してください。
- このバルク トランザクション用に修正されたポートの詳細を含む CSV データ ファイルを用意します。詳細については、[P.7-24 の「Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用 CSV データ ファイルの作成」](#)を参照してください。
- Directory Number の詳細を更新する場合は、Gateway Directory Number テンプレートを作成する必要があります。詳細については、[P.7-3 の「FXS ポート用のゲートウェイ電話番号テンプレートの作成」](#)を参照してください。

手順

- ステップ 1** Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウで、**Update Catalyst 6000 FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Steps to Update Catalyst 6000 (FXS) Gateways ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** **Update FXS Ports** を選択します。Update Ports ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** File Name フィールドで、このバルク トランザクション用の Catalyst 6000 ポート用 CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 4** Catalyst 6000 (FXS) Ports Template フィールドで、FXS ポート更新用の BAT テンプレートを選択します。
- ステップ 5** (オプション) Gateway Directory Number Template Name フィールドで、Cisco Catalyst 6000 FXS ポートに対して電話番号を更新するために作成した BAT テンプレートを選択します。



(注) CSV データ ファイル上で電話番号の詳細を指定していない場合、Gateway Directory Number Template は必要ありません。

ステップ 6 **Update** をクリックします。

Cisco CallManager データベースからレコードを更新するために必要な時間を通知するメッセージが表示されます。システムのパフォーマンスの低下が起こりそうな場合は、トランザクションを取り消すことができます。

ステップ 7 Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを更新するには、**OK** をクリックします。トランザクションを取り消すには、**Cancel** をクリックします。

OK をクリックした場合、Transaction Status ウィンドウが表示されます。**Show Latest Status** をクリックすると、トランザクションの進行状況が表示されます。

トランザクションが完了したら、ステータス メッセージを確認します。完了または失敗を示すステータス メッセージが BAT に表示されます。

ステップ 8 **View Latest Log File** をクリックすると、更新されたレコード数と問題のあるレコード数を示すログ ファイル (エラー コードを含む) が表示されます。ログ ファイルの詳細については、[P.13-2](#) の「**BAT ログ ファイル**」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除

Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS ゲートウェイからすべてのポートを削除する手順は、次のとおりです。**Configure > Gateways > Catalyst 6000 FXS** の順に選択して、ポートの削除オプションにアクセスします。

手順

ステップ 1 Catalyst 6000 (FXS) Options ウィンドウで、**Delete Catalyst 6000 FXS ports** を選択して **Next** をクリックします。Delete Ports ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 すべてのポートを削除する Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイの名前を選択し、矢印ボタンをクリックして、**Available Gateways** リストと **Selected Gateways** リスト間でゲートウェイを移動させます。

BAT は、Selected Gateways リストボックスに表示されているゲートウェイに限り、そのポートをすべて削除します。

ステップ 3 **Delete All Ports** をクリックします。

このトランザクションの実行に必要な時間を通知するメッセージが表示されません。

BAT は、Delete All 操作が成功したゲートウェイ数、およびその操作が失敗したゲートウェイ数を示すログ ファイル（エラー コードを含む）を生成します。

ステップ 4 このトランザクションのログ ファイルを開くには、**View Latest Log File** リンクをクリックします。エラーの詳細については、[P.13-2](#) の「[BAT ログ ファイル](#)」を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

ここでは、次のゲートウェイ テンプレートで使用されるフィールドについて説明します。

- [Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-32\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS Ports テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-44\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 \(P.7-47\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 \(P.7-49\)](#)
- [T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 \(P.7-52\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(P.7-54\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 \(P.7-66\)](#)

Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明

Gateway Directory Number テンプレートの値を追加または更新するときは、次のフィールドの説明を参照してください。


Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
Line Details (回線の詳細)	
Partition	電話番号が追加される先のパーティションを選択します。

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Directory Number Settings (電話番号の設定)	
Voice Mail Profile	電話番号のボイス メッセージフィールドを、デフォルトで電話番号と同じ値にするには、このチェックボックスをオンにします。つまり、コールは、その電話番号を呼び出すだけで、ボイス メッセージには進みません。
Calling Search Space	このグループの電話番号が属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ルートパーティションの集合を指定するものです。ルートパーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR 設定値	
AAR Voice Mail	フィールドのこの列にある設定では、宛先に達するには不十分な帯域幅になっているコールの処理を指定します。これらのコールは、自動代替ルーティング (AAR) によって処理され、AAR Destination Mask または Voice Mail に転送されます。 Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、このチェックボックスをオンにします。  (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。
AAR Destination Mask	ダイヤルする AAR 宛先を決定するには、外部電話番号マスクの代わりにこの設定を使用します。
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。 AAR Group を <None> に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)



フィールド	説明
AAR Keep Call History	このフィールドで、コールの AAR 部分を Call Forwarding History に残すかどうかが決まります。 <ul style="list-style-type: none"> － Remove this destination from the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残りません。 － Retain this destination in the call forwarding history を選択した場合、コールの AAR leg はコール履歴に残ります。
Network Hold Audio Source	システムがコールを保留にするとき (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコール パークを開始したとき) に再生される保留オーディオ ソースの音楽を選択します。
Call Forward and Pickup Settings (Call Forward と Call Pickup の設定)	
Forward All Voice Mail	コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、Forward All Destination フィールドと Forward All Calling Search Space ボックスでの指定内容は無効になります。
Forward All Destination	すべてのコールが転送される先の電話番号を入力します。  (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
Forward All Calling Search Space	コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。  (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Busy Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy Internal Destination	<p>回線が使用中のときに内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward Busy External Voice Mail	<p>外部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward Busy External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward Busy External Destination	<p>回線が使用中のときに外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)


フィールド	説明
Forward Busy External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Answer Internal Destination	<p>電話機が応答しない場合に、コールが転送される先の内部電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer Internal Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Voice Mail	<p>外線コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Answer External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
Forward No Answer External Destination	<p>電話機が応答しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の外部電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Answer External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage Internal Voice Mail	<p>内部番号からのコールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Coverage Internal Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage Internal Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、内線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の内部電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward No Coverage Internal Calling Search Space	<p>内線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Voice Mail	<p>外線コールをボイスメール プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、Forward No Coverage External Destination フィールドと Calling Search Space チェックボックスでの指定内容は無効になります。</p>
Forward No Coverage External Destination	<p>電話機のカバレッジが対応しない場合に、外線コールが転送される先の電話番号を入力します。</p> <p> (注) この設定値は、ダイヤル可能な任意の電話番号 (制限されていない限り、外部の宛先を含む)、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
Forward No Coverage External Calling Search Space	<p>外線コールが指定された宛先に転送されるときに使用するコーリングサーチ スペースを選択します。この設定値は、システム内で設定されている場合だけ、表示されます。</p> <p> (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Forward Unregistered Internal Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用しないで電話番号に転送される内部コールの転送処理を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p> <p> (注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Forward Unregistered Internal Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p> <p> (注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送する場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト メニューから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p> (注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)




フィールド	説明
Forward Unregistered External Voice Mail	<p>フィールドのこの列にある設定では、登録デバイスを使用しないで電話番号に転送される外部コールの転送処理を指定します。次の値を指定します。</p> <p>Voice Mail Profile Configuration ウィンドウの設定を使用するには、Voice Mail チェックボックスをオンにします。</p>  <p>(注) このチェックボックスがオンになっている場合、Cisco CallManager は Coverage/Destination ボックスおよび Calling Search Space の設定を無視します。内部コールに対してこのチェックボックスがオンになっているとき、システムは自動的に外部コールの Voice Mail チェックボックスをオンにします。外部コールをボイスメッセージシステムに転送しない場合は、外部コールの Voice Mail チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
Forward Unregistered External Coverage/Destination	<p>外部の宛先を含む、ダイヤル可能な任意の電話番号を入力します。</p>  <p>(注) 内部コールのカバレッジ / 宛先の値を入力すると、システムは自動的にこの値を外部コールの Coverage/Destination フィールドにコピーします。外部コールを別の宛先に転送したい場合は、外部コールの Coverage/Destination フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>
Forward Unregistered External Calling Search Space	<p>ドロップダウン リスト ボックスから Calling Search Space を選択します。この設定値は、上で選択した電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>  <p>(注) 内部コールの Calling Search Space を選択すると、システムは自動的にこの設定値を外部コールの Calling Search Space の設定値にコピーします。外部コールを別の Calling Search Space に転送する場合は、外部コールの Calling Search Space で別の設定値を選択してください。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ時間 (秒数) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。
Call Pickup Group	Pickup Group Name を選択してコール ピックアップ グループを指定します。コール ピックアップ グループでは、該当のピックアップ グループ番号をダイヤルすることにより、この電話番号への着信コールに応答することができます。
Multilevel Precedence and Preemption Alternate Party Settings (マルチレベル優先順位およびプリエンプション代替パーティ設定)	
Target (Destination)	この電話番号が優先コールを受信したが、その番号もそのコール転送先もその優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールが向けられる先の番号を入力します。 値は数字、シャープ (#)、およびアスタリスク (*) を含めることができます。
Calling Search Space	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ ターゲット (宛先) 番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。
No Answer Ring Duration	コールが呼び出し音を送り、応答を待つ秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間内に応答がないと、Forward No Answer Destination にコールを転送します。 Cisco CallManager エンタープライズ パラメータの Precedence Alternate Party Timeout で設定されている値を使用する場合は、この設定をブランクのままにします。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Line Settings for This Device (このデバイスに対する回線設定)	
Display (Internal Caller ID)	<p>このフィールドは、回線の着信表示に電話番号を表示しない場合だけ使用します。回線と電話機の組み合わせに使用されているこの電話番号を識別するためのテキストを入力します。</p> <p>推奨される入力値としては、上司の名前、部門名、あるいは複数の電話番号を受け持つ秘書またはアシスタントが複数の電話番号を識別できる別の適切な情報が挙げられます。半角カタカナを指定することができますが、着信側の電話機のユーザ ロケールが "Japanese_Japan" でない場合は正しく表示されないので、注意が必要です。</p>
External Phone Number Mask	この電話番号からコールを行うときに発信者 ID 情報用に送信される電話番号 (マスク) を 24 桁以下で入力します。
Alerting Name	共有電話番号に対するアラート中に表示する必要がある名前を入力します。非共有電話番号の場合、アラート時には Display フィールドに入力された名前が使用されます。
Maximum Number of Calls	<p>クラスタ内のデバイスの 1 つの回線に対して最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイスが制限要因となります。1 つの回線に対してコールの数を設定すると、別の回線に使用可能なコールが減少します。</p> <p>デフォルトは 4 です。電話機が回線ごとの複数コールを許可していない場合、デフォルトは 2 です。</p> <p>CTI ルート ポイントに対しては、各ポートに対して最大 10,000 のコールを設定できます。デフォルトは 5000 コールです。このフィールドは Busy Trigger フィールドと併せて使用します。</p>

表 7-1 Gateway Directory Number テンプレートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Busy Trigger	<p>この設定は、Maximum Number of Calls および Call Forward Busy と連動し、回線で表示されるコールの最大数を決定します。Maximum Number of Calls が 50 に設定され、Busy Trigger が 40 に設定されている場合、着信コール 41 は話し中を理由として拒否されます (さらに Call Forward Busy が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線が話し中になって、初めて着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイント用の Maximum Number of Calls と併せて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
Forwarded Call Information Display for this Device (デバイスの転送コール情報の表示)	
Caller Name	転送されたコールの受信時に、表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトはこのチェックボックスはオンになっています。
Redirected Number	転送されたコールの受信時に、表示にリダイレクトされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Caller Number	転送されたコールの受信時に、表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
Dialed Number	転送されたコールの受信時に、表示にダイヤルされた番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトはこのチェックボックスはオンになっています。

その他の情報

詳細については、P.7-68 の「関連項目」を参照してください。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS Ports テンプレートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレート上の FXS ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明


フィールド	説明
Device Information (デバイス情報)	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット（たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース）を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
Network Hold Audio Source	<p>システムがコールを保留にすると (たとえば、ユーザがコールを転送したときや電話会議またはコール パークを開始したとき) に再生される保留オーディオ ソースの音楽を選択します。</p>
Location	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
Network Locale	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときを使用する一連のトーンと断続周期を提供します。</p>
Gateway Directory Number Template Name	<p>POTS ポート タイプを追加しようとするときに、そのポートに電話番号を割り当てる場合は、Gateway Directory Number テンプレートを設定しておく必要があります。</p> <p>これらのポートに使用される Gateway Directory Number テンプレートを</p> <p>選択します。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-2 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)	
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFFF の値である必要があります。
MLPP Indication	このデバイスでは使用不可。
MLPP Preemption	このデバイスでは使用不可。
Port Information (ポート情報)	
Prefix DN	(オプション) 着信コールで受信された数字に付加されるプレフィックス番号を指定します。
Num Digits	収集する数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有効数字をカウントします。
Expected Digits	トランクの着信側で必要な桁数を指定します。不明の場合は、デフォルト値 (ゼロ) を使用してください。
SMDI Port Number (0-4096)	このフィールドはボイスメール システムに接続するアナログ アクセスポート用に使用します。 SMDI Port Number は、アナログ アクセス ポートが接続されるボイスメール システム上の実際のポート番号と同じ番号に設定します。  (注) ボイスメール システムが正常に動作するためには、一般にボイスメールの論理ポートが物理ポートに一致する必要があります。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクの値をテンプレート内で追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
Device Information (デバイス情報)	
Port Type	ポートのタイプ (Ground Start または Loop Start) を選択します。
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。
Common Profile	ドロップダウン リスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Media Resource Group List	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
Location	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
Network Locale	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときを使用する一連のトーンと断続周期を提供します。</p>
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)	
MLPP Domain (“0000FF” など)	<p>このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。</p>
Port Information (ポート情報)	
Port Direction	<p>このポートを通過するコールの方向を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールだけに使用。 • Outbound : 発信コールに使用。 • Both Ways : 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。

表 7-3 Cisco VG200 ゲートウェイ上の FXO トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Attendant DN	着信コールを転送する先の電話番号を入力します。たとえば、0 は、オペレータです。

Product-Specific Configuration (ループスタートまたはグラウンドスタートのトランク用)

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
Device Information (デバイス情報)	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポートが属するデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Common Profile	ドロップダウンリスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。
Call Classification	ドロップダウンリスト ボックスで、on net、off net、または system default の中からデバイスの設定オプションを選択します。 デバイス レベルで「Use System Default」を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (on net) か外部 (off net) かが決定されます。
Calling Search Space	このグループのゲートウェイまたはポート用のコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
AAR Calling Search Space	デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。
Media Resource Group List	このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。
Location	このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。 ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモートロケーションを指します。

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
AAR Group	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
Handle DTMF Precedence Signaling	このゲートウェイを有効にして、特殊 DTMF 信号を MLPP 優先レベルとして解釈させるには、このチェックボックスをオンにします。
Load Information	ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。 デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。
Port Selection Order	ポートが選択される順序を選択します。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、TOP_DOWN を選択してください。 <ul style="list-style-type: none"> • TOP_DOWN : 最初のポート (ポート 1) から最後のポートまで、降順にポートを選択します。 • BOTTOM_UP : 最後のポートから最初のポート (ポート 1) まで、昇順にポートを選択します。
Digit Sending	ダイヤルアウト方式に、次の数字送信タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • DTMF : DTMF (通常のプッシュホンのダイヤル方式)。デフォルトでは、このタイプが選択されています。 • MF : Multifrequency。
Network Locale	このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用する一連のトーンと断続周期を提供します。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-4 Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランクのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
SMDI Base Port	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。

Product-Specific Configuration（製品固有の設定）

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力オプションです。

表 7-5 T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明

フィールド	説明
Port Details（ポートの詳細）	
Port Direction	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> Inbound：着信コールだけに使用。 Outbound：発信コールに使用。 Bothways：着信コールと発信コールに使用（デフォルト）。

表 7-5 T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できるので、どの電話番号を送信するかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : コールを発信したデバイスの電話番号を送信します。(デフォルト)。 • First Redirect Number : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。 • First Redirect Number (External) : リダイレクトするデバイスの外部電話番号を送信します。 • Last Redirect Number (External) : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの外部電話番号を送信します。
Caller ID Type	<p>コールの着信側に表示される、発信者 ID のタイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ANI : Automatic Number Identification。発信側の番号 (デフォルト)。 • DNIS : Dialed Number Identification Service。発信者がダイヤルした番号。
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 • 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
Prefix DN	<p>着信コールで着信側番号に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、Num Digits の設定値にしたがって番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Num Digits	<p>収集する有効数字の桁数を、0 ~ 32 で指定します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右 (最後の桁) から有効数字をカウントします。デフォルトは 4 です。</p>
Expected Digits	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。不明な場合は、ゼロを使用してください。デフォルトは 4 です。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-5 T1 CAS 用の E & M ポートのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Product Specific Configuration (製品固有の設定)	
Signaling Type	トランク インターフェイス上の E & M プロトコル用のシグナリング タイプを選択します。Wink Start または Delay Dial。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「[関連項目](#)」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイ上の T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもあります。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はオプションです。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明

フィールド	説明
Device Information (デバイス情報)	
Device Pool	このグループのゲートウェイまたはポート用のデバイス プールを選択します。 デバイス プールは、デバイスに共通した特性のセット (たとえば、地域、日付 / 時刻グループ、Cisco CallManager グループ、および自動登録用のコーリング サーチ スペース) を定義します。
Common Profile	ドロップダウンリスト ボックスから Common Profile を選択します。コンフィギュレーションについての詳細は、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Call Classification	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、on net、off net、または system default の中からデバイスの設定オプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで「Use System Default」を選択した場合は、サービス パラメータの値を使用してデバイスが内部 (on net) か外部 (off net) かが決定されます。</p>
Network Locale	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>Network Locale は、シスコのゲートウェイと電話機が、特定地域の PSTN およびその他のネットワークと通信するときに使用するトーンと断続周期を提供します。</p>
Media Resource Group List	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、優先順位が付けられたメディア リソース グループのリストを指定します。アプリケーションは、MRGL で指定された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースの中から、必要なメディア リソースを選択できます。</p>
Location	<p>このグループのゲートウェイまたはポート用のロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、帯域幅制限付き接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを指します。</p>
AAR Group	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を提供するものです。プレフィックス番号は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるコールをルーティングするために使用します。AAR グループを None に設定すると、ブロックされるコールのルーティングは試行されません。</p>
Load Information	<p>ゲートウェイ用のカスタム ソフトウェアに該当するロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p> <p>デフォルト ロードを使用する場合は、このフィールドをブランクのままにします。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Interface Information (インターフェイス情報)	
PRI Protocol Type	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンには、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRI AUSTRALIAN : Australian ISDN • PRI EURO : European ISDN • PRI ISO QSIG E1 : European PBX 間シグナリング プロトコル <p>T1 PRI スパンには、通信会社または交換機に応じて、複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PRI 4ESS : AT&T 長距離通信会社、Lucent Definity 交換機 • PRI 5E8 Custom: Cisco IP Phone、Nortel Meridian 交換機、Lucent Definity 交換機 • PRI 5E8 Teleos : Madge Teleos ボックス • PRI 5E8 Intecom : Intecom PBX • PRI 5E9 : AT&T 系の市内電話会社または通信会社 • PRI NI2 : Sprint 市内電話会社または通信会社 • PRI DMS-100 : Sprint 市内電話会社または通信会社 • PRI DMS-250 : MCI および Sprint 市内電話会社または通信会社 • PRI ETSI SC : T1 ベースの欧州市内電話会社、および日本の市内電話局 • PRI ISO QSIG T1 : PBX 間シグナリング プロトコル
Protocol Side	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定値は、ゲートウェイが Central Office/Network デバイスに接続するか、User デバイスに接続するかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端が、逆の設定値を使用していることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときに、PBX がプロトコル側として User を使用する場合、このデバイスには Network を選択します。一般に、Central Office (CO) 接続には User を使用します。</p>

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Channel Selection Order	<p>チャンネルまたはポートが使用可能になる順序、つまり最初（最小番号のポート）から最後（最大番号のポート）の順か、最後から最初の順かを選択します。</p> <p>有効な入力値は、TOP_DOWN（最後から最初）または BOTTOM_UP（最初から最後）です。どちらのポート順序を使用すべきか分からない場合は、TOP_DOWN を選択してください（デフォルトは BOTTOM_UP）。</p>
Channel IE Type	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Number : B チャンネルの使用は、常にチャンネルマップ形式です。 • Slotmap : B チャンネルの使用は、常にスロットマップ形式です。 • Use Number When 1B : チャンネルの使用は、1 つの B チャンネルにはチャンネルマップですが、複数の B チャンネルが存在する場合は、スロットマップです（デフォルト）。
PCM Type	<p>デジタル符号化フォーマットを指定します。次の形式のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • a-law : ヨーロッパおよび下記以外の国で使用します。 • mu-law : 北米、香港、台湾、および日本で使用します。
Delay for First Restart	<p>(オプション) スパンが開始するレートを、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、システム上で多数の PRI スパンが使用可能になっているときに、Inhibit Restarts at PRI Initialization チェックボックスがオフになっている場合です（デフォルト値は 32）。</p> <p>たとえば、最初の 5 つのカードを 0 に設定し、次の 5 つのカードを 16 に設定します（カードが使用開始になるまで 2 秒待ちます）。</p>
Delay Between Restarts	<p>再起動間の間隔を、1/8 秒単位で入力します。遅延が起きるのは、Inhibit Restarts チェックボックスがオフになっている場合に、PRI RESTART が送信されるときです（デフォルト値は 4）。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Inhibit Restarts at PRI Initialization	再起動メッセージによって、PRI スパン上のポートの状況を確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco CallManager は、ポートが使用中であると想定します。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。 D チャンネルは、別の PRI トランクの D チャンネルと正常に接続されると、このチェックボックスがオフの場合は、Restart を送信します。
Enable Status Poll	Cisco CallManager の拡張サービス パラメータである「Change B-Channel Maintenance Status」を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。このサービス パラメータによって B チャンネルがアクティブのときに個別の B チャンネルをサービスから除外できます。 「Change B-Channel Maintenance Status」サービス パラメータを無効にするには、このチェックボックスをオフにします。 デフォルトではこのチェックボックスはオフになっています。
Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information (マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報)	
MLPP Domain (“0000FF” など)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。ブランクまたは 0 ~ FFFFFFF の値である必要があります。
Call Routing Information - Inbound Calls (コールルーティング情報：着信コール)	
Significant Digits	このフィールドは、PRI スパンが着信コールで保持しなければならない末尾の桁数を表します。Significant Digits (有効数字) が有効になっているトランクは、着信コールで提供されるアドレスの最後の数桁以外をすべて切り捨てます。 Significant Digits (有効数字) を収集するかどうかに応じて、このチェックボックスをオンまたはオフにします。 <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco CallManager は着信番号を切り捨てない。 このチェックボックスをオンにする場合、収集する Significant Digits (有効数字) の桁数も選択する必要があります。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Search Space	<p>このグループの電話機またはポートのコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
AAR Calling Search Space	<p>デバイスが自動代替ルーティング (AAR) の実行時に使用する適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、ルート パーティションの集合を指定するものです。ルート パーティションの集合は、帯域幅不足のために本来ならブロックされるダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
Prefix DN	<p>(オプション) 着信コールでこのトランクが受信する数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco CallManager は、Num Digits の設定値に従って、番号を切り捨てた後、プレフィックス番号を追加します。</p>
Call Routing Information - Outbound Calls (コールルーティング情報 : 発信コール)	
Calling Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager が発信者電話番号を送信するか、ブロックするかを選択します。</p> <p>発信者回線番号の表示を変更しない場合は <i>Default</i> を選択します。Cisco CallManager が「Calling Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「Calling Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Calling Party Selection	<p>ゲートウェイが発信する任意のコールは、電話番号情報を送信できます。どの電話番号が送信されるかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : コールの発信側デバイスの電話番号を送信します。この番号がデフォルト値です。 • First Redirect Number : リダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • Last Redirect Number : コールを最後にリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Party Number Type IE Unknown	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が、発信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します (デフォルト)。 • International: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • National: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco CallManager が、着信側の電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が電話番号のタイプを設定します。 • International: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • National: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Called Numbering Plan	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が、着信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• CallManager : Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定します。• ISDN : ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときを使用します。• National Standard : ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときを使用します。• Private : プライベートネットワーク内でダイヤルするときを使用します。• Unknown : (オプション) ダイヤル計画が不明です。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Calling Numbering Plan	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が、発信側の DN 番号計画を設定します。NANP やヨーロッパダイヤル計画などのダイヤル計画に十分な経験がある場合を除いて、デフォルト値を変更しないようにお勧めします。Cisco CallManager はヨーロッパの国別ダイヤル計画を認識しないので、ヨーロッパではデフォルト値を変更する必要があります。また、非国別タイプ番号としてルーティングを実行する PBX に接続する場合も、この設定値を変更できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CallManager: Cisco CallManager が電話番号の番号計画を設定します。 • ISDN: ご使用の国用のダイヤル計画以外の場所でダイヤルするときに使用します。 • National Standard: ご使用の国用のダイヤル計画内の場所でダイヤルするときに使用します。 • Private: プライベートネットワーク内でダイヤルするときに使用します。 • Unknown: (オプション) ダイヤル計画が不明です。
Number of Digits to Strip	<p>発信コールに関して除去する桁数を、0 ~ 32 で選択します (デフォルト値は 0)。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルし、除去する桁数が 3 であるとし、この例では Cisco CallManager は発信番号から 888 を除去します。</p>
Caller ID DN	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 55XXXX = 可変発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。 • 5555000 = 固定発信者 ID。コールの発信元である正確な内線番号ではなく、Corporate 番号を送信する場合に使用します。この番号を指定しない場合、CO が、市外局番にこの番号を付加します。
SMDI Base Port	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
PRI Protocol Type Specific Information (PRI プロトコル タイプに固有の情報)	
Display IE Delivery	(オプション) 発信側と着信側の名前通知サービスに対して、SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージ内の表示情報要素 (IE) の通知を可能にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
Redirecting Number IE Delivery—Outbound	(オプション) コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。 この設定値は、デジタルアクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。
Redirecting Number IE Delivery—Inbound	(オプション) コールの転送時に最初にリダイレクトした端末番号とコールのリダイレクトの理由を知らせるために、SETUP メッセージに Redirecting Number IE を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。 この設定値は、デジタルアクセス ゲートウェイ用のすべてのプロトコル上で、SETUP メッセージだけに適用されます。
Send Extra Leading Character in DisplayIE	DisplayIE フィールドに特殊先頭文字バイト (非 ASCII 文字、表示不能) を含めるには、このチェックボックスをオンにします。 DisplayIE フィールドからこの文字バイトを除外するには、このチェックボックスをオフにします。 このチェックボックスは DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルだけに適用します。 デフォルトでは、このフィールドは無効 (オフ) になっています。

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Setup of Non-ISDN Progress Indicator IE Enable	<p>(オプション) 一部の PBX 上でリングバックを強制するには、このフィールドに値を指定する必要があります。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。ユーザが発信コールでリングバック音を受信しない場合だけ、このチェックボックスをオンにしてください。</p> <p>この設定値が使用可能である場合、Cisco CallManager は、Q.931 セットアップ メッセージを、Progress Indicator フィールドが non-ISDN に設定されているデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco CallManager ゲートウェイが non-ISDN であること、および宛先デバイスが帯域内呼び出し音を再生しなければならないことを、宛先デバイスに知らせます。</p> <p>通常、この問題は、デジタル ゲートウェイを介して PBX に接続する Cisco CallManager に関連しています。</p>
MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>
Send Calling Name in Facility IE	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。</p>
Interface Identifier Present	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。Interface Identifier が存在することを指定するには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。</p>
Interface Identifier Value	<p>このフィールドは、DMS-100 プロトコルだけに適用されます。PBX プロバイダーから得られる値を入力します。有効な値は 0 ~ 255 です。</p>

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Connected Line ID Presentation	<p>Cisco CallManager が着信側電話番号の表示を許可するか、ブロックするかを選択します。</p> <p>着信回線番号の表示を変更しない場合は <i>Default</i> を選択します。</p> <p>Cisco CallManager が「Connected Line ID Allowed」を送信するようにする場合は、<i>Allowed</i> を選択します。Cisco CallManager が「Connected Line ID Restricted」を送信するようにする場合は、<i>Restricted</i> を選択します。</p>
Connected PBX Model	<p>このゲートウェイが通信する構内交換機 (PBX) または VoIP スイッチのタイプおよびモデルを選択します。</p> <p>このフィールドは QSIG プロトコルを使用するゲートウェイだけに適用します。</p> <p>オプションは次を含みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Siemens Hicom • Ericsson MD-110 • Alcatel PBX • Meridian Option 11C • Lucent Definity G3 • IPC MX • Cisco CallManager (CCM)
UUIE Configuration (UUIE 設定)	
Passing Precedence Level Through UUIE	<p>PRI 4ESS UUIE フィールドを使用した MLPP 情報の受け渡しを可能にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチの操作に使用されます。</p> <p>このチェックボックスは、このゲートウェイで PRI Protocol Type 値に PRI 4ESS が指定されている場合にだけ使用可能になります。</p> <p>デフォルト値では、このチェックボックスはオフになっています。</p>
Security Access Level	<p>セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は 00 ~ 99 です。このフィールドは、Passing Precedence Level Through UUIE チェックボックスがオンの場合にだけ使用可能になります (デフォルト値は 2)。</p>

■ ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

表 7-6 T1 PRI トランクまたは E1 PRI トランクのフィールドの説明 (続き)

フィールド	説明
Product-Specific Configuration (製品固有の設定)	
Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、 Product Specific Configuration 見出しの右側にある i 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。	

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ上の FXS ポートのフィールドの説明

Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイ アナログ インターフェイス モジュール上の FXS ポートの値を追加または更新する際には、次のフィールドの説明を参照してください。

Cisco CallManager Administration で設定された値を表示するフィールドもありません。

BAT ユーザ インターフェイスでは、アスタリスクが付いているフィールドには値を入力する必要があります。アスタリスクのないフィールドでは、入力はおプションです。

表 7-7 Cisco Catalyst 6000 モジュール上の FXS ポートのフィールドの説明

フィールド	説明
Catalyst 6000 (FXS) Ports Template Name	テンプレートの名前を 50 文字以下の英数字で入力します。
Port Direction	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • Inbound : 着信コールだけに使用。 • Outbound : 発信コールに使用。 • Both Ways : 着信コールと発信コールに使用 (デフォルト)。

表 7-7 Cisco Catalyst 6000 モジュール上の FXS ポートのフィールドの説明（続き）

フィールド	説明
Prefix DN	着信コールで受信された数字に付加されるプレフィックス番号を入力します。
Num Digits	収集する数字の桁数を 0 ～ 32 で入力します。Cisco CallManager は、コールされる番号の右（最後の桁）から有効数字をカウントします。
Expected Digits	トランクの着信側で必要な桁数を入力します。不明な場合は、ゼロを使用してください。
SMDI Port Number	SMDI ポート番号を入力します。アナログ アクセス ポートが接続されるボイス メッセージ システム上の実際のポート番号と同じ番号を使用してください。

Product Specific Configuration（製品固有の設定）

Product Specific Configuration ではモデル固有のフィールドが定義されています。フィールドの説明、および製品固有の設定項目のヘルプを表示するには、**Product Specific Configuration** 見出しの右側にある **i** 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ウィンドウにヘルプを表示してください。詳細な情報が必要な場合は、設定するゲートウェイの資料を参照してください。

その他の情報

詳細については、[P.7-68](#) の「**関連項目**」を参照してください。

関連項目

- [Cisco VG200 ゲートウェイとポートの処理 \(P.7-2\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(P.7-3\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイの削除 \(P.7-20\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュールの処理 \(P.7-22\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール ポートの追加 \(P.7-23\)](#)
- [Cisco CallManager における Cisco Catalyst 6000 FXS ポートの更新 \(P.7-29\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイのポートの削除 \(P.7-31\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(P.7-32\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイのレポートの生成 \(P.11-14\)](#)